

基本情報

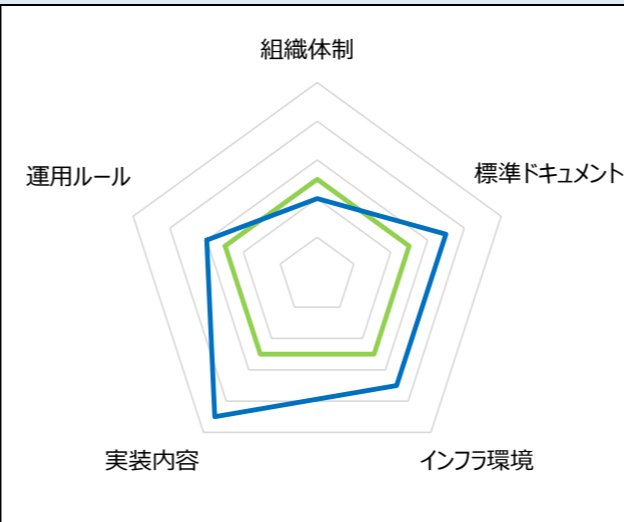
貴社名	xxxxxxx株式会社
RPAツール	Blue Prism
導入時期	2019年10月
運用中プロセス数	5件
開発中プロセス数	3件
RPA組織体系	集中型

* RPAツールがBlue Prismの場合

バージョン	v6.8.0
ライセンス数	2ライセンス
ライセンス使用率	30~40%

診断結果

診断日	2021年2月15日
診断士	RPA 太郎 RPA 花子
凡例	標準値 貴社



総評	CoE組織を中心に標準ドキュメント・運用ルールの整備が進んでおり、高品質のRPA開発を実現いただけています。システム部門との連携も取れており、インフラ環境も定期メンテナンスが行き届いています。一方で、RPAに関する導入目的・将来の運用ビジョンが業務部門へ浸透しておらず、現時点での業務自動化による効果は限定的と見受けられます。今後、RPA組織体系を現行の集中型から連合型へと転換される際には、現在のコアメンバーから業務部門の方への啓蒙・教育を進めていただくと共に、インフラ面では開発環境・検証環境の構築を合わせてご検討いただくことを推奨します。
推奨サービスメニュー	【業務部門向け】：ハンズオンセミナー、開発基礎トレーニング 【CoE組織向け】：開発支援サービス（運用標準作成）、開発基礎トレーニング 【システム部門向け】：環境構築支援サービス

診断内容詳細

分類	評価項目	内容	判定	コメント	改善策	
組織体制	ビジョン	① 組織全体でRPA運用ビジョンが共有されているか	×	2019年10月の導入からCoE組織を中心とする集中型のRPA組織体系が確立され、適切に機能していたことを確認しました。CoE組織は健全に機能していた一方で、業務部門への啓蒙・展開には課題を感じられていることをご担当者様のヒアリングで伺いました。業務部門の方へのヒアリングでは、RPA導入についての組織全体での目的を認識されていないケースも確認されました。今後の展開に向けては、業務部門の方へのビジョンの共有および教育の推進が鍵となります。	<ul style="list-style-type: none"> RPA導入のビジョンを改めてトップダウンで周知・啓蒙を進めることを推奨します。 RPA組織体系を集中型から連合型へ転換することを推奨します。 業務部門への教育計画策定を推奨します。 	
		② RPA組織体系が明確に定義されているか	○			
	組織	③ 現在のRPA組織体系は企業戦略・文化に合致しているか	△			
		人員	④ RPA運用に必要な役割に対し人員配置されているか			△
			⑤ 各チームの強化・拡大に向けた教育が提供されているか			×
運用ルール	統制と案件管理	① 自動化候補業務の収集と優先度付けが安定的に行われているか	×	CoE組織を中心に、開発標準に沿ったRPA開発が適正に行われており、関係メンバーの方のヒアリングでも高い理解度・習熟度を確認できました。一方で、業務部門でのRPA認知度が低く、自動化対象業務の収集が滞っています。現在自動化を行っている業務はCoE組織の方の関わる業務が中心であるため、今後の展開を進めるにあたっては業務部門から広く自動化対象業務の収集・優先度付けを行っていく必要があります。	<ul style="list-style-type: none"> 既に運用中の自動化プロセスの操作デモを全社へお披露目するイベントの開催を推奨します。 各メンバーのRPAに対する理解を深めるために、無料のハンズオンセミナーや有償のトレーニングをご利用いただくことを推奨します。 	
		構築方法論	② 要件定義・手順・ルールが明確化され、運用されているか			△
	③ 設計/実装/テスト - 手順・ルールが明確化され、運用されているか		○			
	④ 導入 - 手順・ルールが明確化され、運用されているか		○			
	⑤ サポート・障害対応-手順・ルールが明確化され、運用されているか	△				
標準ドキュメント	開発ドキュメント	① 開発標準（規約）が作成され、運用されているか	△	CoE組織を中心に開発標準が策定され、規約に沿ったRPA開発が実施されていることを確認しました。一方で、リリース後の運用や障害対応に関するルールは現状ドキュメント化されていませんでした。今後、利用部門の拡張を進めた際にスムーズな運用を継続するためにこれらの対応は急務となります。また、開発標準については、理解度・習熟度の高いメンバー以外の方でも間違いなく理解ができる内容であるか検証が必要です。	<ul style="list-style-type: none"> 運用標準の早期策定を推奨します。 作成方法にご不安がある場合は、ドキュメント作成の支援サービスを利用いただくことを推奨します。 	
		② 要件定義ドキュメント（PDD・FRQ）が標準化されているか	○			
		③ 設計ドキュメント（ODI、PDI、SDD、OID）が標準化されているか	○			
		④ テスト計画書が標準化されているか	○			
	運用標準	⑤ 運用標準（規約）が作成され、運用されているか	×			
実装内容（※）	ベストプラクティス	① プロセステンプレート/ワークキューを使用しているか	○	Blue Prismの開発ベストプラクティスに沿った開発が開発標準に沿って実践できており、大変素晴らしいです。今回参照させていただいたプロセスにおいて、一部のオブジェクトでアプリケーションに対するアタッチの確認処理が抜けているものがありましたので、見直しをすることを推奨します。	<ul style="list-style-type: none"> アタッチ確認の実装漏れについては、他のオブジェクトについても類似の問題が無いか点検いただくことを推奨します。 Blue Prism認定開発者の資格取得を目指す方は専用のトレーニングの受講を推奨します。 	
		② プロセス/オブジェクトの分割粒度は適切か	○			
		③ プロセス名/オブジェクト名/要素名は命名規則に準じているか	○			
		④ 例外処理/待機/アタッチ処理が考慮されているか	△			
		⑤ 環境変数/認証情報を適切に使用しているか	○			
インフラ環境（※）	環境分離	① 開発環境、検証環境、本番環境へ分離されているか	×	現行は、本番環境のみで運用されていることを確認しました。現在稼働しているプロセスは限定的な部門で利用されており、障害発生時のインパクトも比較的小さい内容であるため現時点では問題は無いと見受けられます。今後、開発者・開発プロセスの増加や、運用上インパクトの大きい重要業務の自動化を進めるにあたっては環境の分離は必須事項になってきます。バックアップ・アーカイブの定期メンテナンスは適正に運用されており、問題ありませんでした。	<ul style="list-style-type: none"> RPA組織体系を集中型から連合型へ転換させるタイミングに合わせて、インフラ面も環境分離を進めることを推奨します。 環境構築にご不安がある場合には、環境構築支援をご利用いただくことを推奨します。 	
		AppSV/SQL SV	② OS/SQLのバージョン、PCスペックは適切か			○
	③ 定期バックアップ・アーカイブ運用が行われているか		○			
	RR/IC		④ OSのバージョン、PCスペックは適切か			○
		⑤ ログインエージェントの設定は適切か	△			

※RPAツールがBlue Prism以外の場合、実装内容/インフラ環境の評価項目は限定的または対象外となります。